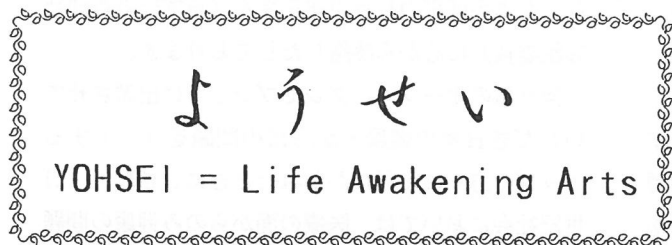


ようせい
日本養生学会

第22号



- ▷ 巻頭言
- ▷ 「からだ博」へ参画して
- ▷ 中国養生法海外研修会報告
- ▷ 第2弾・発刊予告
- ▷ 2004年度学会大会発表申込案内

事務局：東京女子大学文理学部・横沢研究室内

FAX : 03-3396-9996 ・ <http://www.yosei.gr.jp/>

本会のモットーは「共生原理」

「かかわり」の問題について

ようせい
日本養生学会・常任理事

伴 義 孝

ボクが「かかわり」の問題に関心をもちだしたのはかなり以前だった。1972年の頃、笹沢佐保の小説をモチーフにする「木枯らし紋次郎」がテレビ番組や映画や芝居にもなって一世を風靡していた。

「あっしにはかかわりのねえことでござんす」と言って物語が始まる。なぜにこんな台詞がかくも世間受けしたのだろうか。小説の「紋次郎」はこの台詞と裏腹に「かかわり」の問題を根幹とする義理人情に駆られて最後に「悪」を切る。この筋立てが受けた。台詞には反時代相として笹沢佐保のアイロニーが込められている。この股旅物小説は世間が義理人情という「日本のこころ」を断ち切りはじめた1970年代を痛烈に描写したのである。人心はそうした時代状況に「どこか奇怪しい」と不安を抱いていた。だから劇中描写にささやかながらも溜飲を下げたのでないか。これが大ヒットの素因であろう。

ちょうどそのころ「ワーカホリック」という言葉が流行っていた。日本中が、生きるためだとしても、我先にと競争原理の「ファーストワーク」を信奉しだしていたのである。我先の世界では「かかわり」に情をほだされていたら人後に落ちて負け犬になってしまう。おりしもあのブルドーザーのような田中

角栄が『日本列島改造論』（1972）を世に問うたころだった。時代精神は煽られた。人心は右肩上がりのファーストワークを無方針のままに生活信条にしてしまったのである。だからこそ、子どもまでもが、「あっしにはかかわりのねえことでござんす」と口真似で唱えだしたのではなかったか。しかしながら、子どもたちにアイロニーは解せない。

時は経った。こうして、世間は、日本の風土的特性であったはずの「かかわり」の文化を切り捨ててきたのではなかったのか。かくして20世紀末ともなれば、「モノ化する身体」「離陸する精神」といった未曾有のバラバラ状況が人間存在さえをも脅かす

プロフィール

1940年生まれ。関西大学文学部身体運動文化専修教授。身体運動論・身体運動文化論専攻。全日本学生レスリング連盟会長・アジアレスリング連盟事務総長・国際レスリング連盟特級審判員として活躍。本会の設立に参画する頃から「かかわり」の問題を研究テーマに…。主著に、『「気づき」の構造：実践と思想の対話』『生の体育：からだの原点を問う』『身体運動の人間学』『スポーツ思想の誕生』『二足ロコモーションの意味論』ほか。本会常任理事。

ようになってきている。

このバラバラ状況から脱却するためには生身の「からだ」問題を再考しなければならない。そのためにはこれまでの「ファーストワーク＝競争原理」から「スロワーク＝共生原理」へのパラダイムシフトが必要になる。さて、問題はなにか。現代日本人は効率と成果を過剰に求める近代科学主義に呪縛されてしまっている。そこで、「スロー」という「かかわり」を紡いでくれるはずのその本質を忘れてしまって、語感から「のろま」的に見積もるマイナス評価を1970年代に刷り込まれてしまったのではないか。これが問題の元凶なのだが、このところ様子が変わってきた。近年、「スローフード」の見直し運動が世界のあちこちに出現している。なぜか。「スロー」とは大地に密着する人間の生のリズムなのだ。

ところで競争原理を土台とする過剰なファーストワークは往々にして「ひと・もの・こと」という生活世界との「かかわり」を遮断するところにしか成立しない。本会のモットーは「共生原理」なのであるが、その狙いは「スロワーク」の見直し運動にある。太極拳を遊んでみればわかる。あの天人合一という「かかわり」の境地を「からだ」で実感させてくれる「生のリズム」がいま問題なのだ。

「からだ博」へ参画して

報告：横沢喜久子

2004年8月3日～8日の間、日本経済新聞・NHKほかの主催で、東京ビッグサイト西ホールを会場として開催された「からだ博」へ本会から賛助参画しました。参画プログラムは本紙前号「21号」でご案内のとおりです。参画実績の様子は本会ホームページに詳述してありますのでごらんください。

◇

多くの方々のご協力によって、日経新聞・NHK主催の「見える・わかる・家族の健康：からだ博」へ参画し、日本養生学会として、盛會にプログラムを展開できたことを感謝いたしております。日本でスタートしたこの「からだ博」という新しい試みにおいて、医療面からだけでなく、生命の躍動を引き出す「養生」（生き生きした力・もって生まれ力を

引き出して「生きる力」を養う）の問題に取り組んでいる私たちへ、参加の機会を与えてくれることになった本会理事の長谷川洋三さん（日本経済新聞社論説委員）に心から感謝したしております。

当行事のオープニングレセプションに出席させていただき日本の健康・からだの問題をリードするトップの方々にお目にかかれたときに、私は、「21世紀社会においては、医療の面からのみ健康の問題を取り扱うだけでなく、生きる力を養い、生き生きとしたからだ・こころ・いのちを育む教育・文化面に大いに力を注ぎ、生活的な実践面からも取り組めるように、国の予算を計上できる時代になってほしい」という趣旨のことを訴えてみました。

そして、日本養生学会からの参画プログラムは、この「からだ博」の所期の目的に応じて、多くのメッセージを一般参加者のみなさんにお伝うことができたと思っております。「からだわかるセミナー」で講演していただいた帯津良一氏、跡見順子氏、「みんなの運動コーナー」で実践ワークショップを開催していただいた天野勝弘氏、美馬美千代氏、近藤洋子氏、張勇氏の6名の先生方をはじめ、お忙しいなかをご協力いただいた関係者のみなさまに御礼を申し上げます。

中国養生法研修会2004

▷第10回記念国際ようせいフォーラム◁

本会主催の第10回記念国際養生法研修会は、(社)全国大学体育連合の共催を得て、恒例の上海体育学院の協力のもとに、2004年8月25日～30日のプログラム及び8月30日～9月3日のプログラムを企画して実施された。前者は上海研修会「2004年度第10回中国養生法研修会」として、後者は雲南省研修「雲南省少数民族伝統養生法調査」として企画されたものである。

今回の参加者は、上海研修会に「16名」、雲南省研修会に「16名」の延べ32名であって、そのうち両研修会との参加者は「10名」であった。当研修会の記録は、「国際ようせいフォーラム実行委員会」の横沢喜久子実行委員長（本会理事長・東京女子大

学)及び「同報告書編集委員会」の久保隆彦委員長(本会常任理事・明治学院大学)の連名で、詳細にわたって『大学体育』(83号・2004年11月15日発行)に収録されている。ここでは、その「報告書」から引用して、「第10回記念研修会」を開催する経緯と向後の抱負を紹介してみたい。なお、研修会の「実録」については『大学体育』を読んでいただきたい。



本学会では、上海体育学院との日中共同研究活動によって、西洋現代科学と東洋伝統養生思想・身体技法の融和を求める21世紀養生学の構築に向けて徐々に成果をあげつつあります。この10周年の記念行事とともに、更なる発展のステップにとこの研修会を位置づけました。これまで現代科学中心に進んできた健康・運動・スポーツ教育に加えて身体活動、スポーツ等を含め、全てわたしたちが生きている「からだの原点」を求めて問いかける東洋養生法などの授業は大いに注目されつつあります。

これまでの中国研修では、中国医学、養生法が今日もなお生きつづける中国に行って、直に触れ、伝統的養生法を学ぶことからスタートしました。この10年間、多くの専門分野の異なる方々が参加し、それぞれの取り組みの中で発展させてきました。医学や広く健康科学の世界では、本学会の顧問・癌治療

の帯津良一先生、心臓外科の渥美和彦先生、精神医学の田中朱美先生らをはじめ、この現代科学医療に対し、人間、生物、地球、宇宙へと広くみつめなおし、中国・インドに限らず世界中の伝統的医療を見直しての「統合医療・代替医療・相補医療」の提案がなされてきております。これからの私たちの取り組みは、さらにそれぞれの専門分野から伝統的養生法をとりあげ、この領域への理解を深め、21世紀の新しい養生学のさらなる構築です。

今回のプログラムは、研究討議やシンポジウムによる学術交流、「呼吸法」「気功」「太極拳」「マッサージ」の実習、伝統文化研究でした。今回の実技研修は、これまでの10年間の積み上げ、活動の中での学び、研究の中から起こってきた参加者の疑問・質問をまず取り上げ、さらなる今後の課題・発展へと、結びつけられるように試みました。……この10年間だけでも著しく変化していく上海の近代化の中からもヒントが与えられます。現代科学主義の中で陰に隠れてしまった伝統的養生法を見直し、私たちがイキイキと生きていくには何を大事に守り、研究・検討したらよいか、伝統的養生法の調査・研究を行うことから少しずつ「光」が見えてくるような気がします。

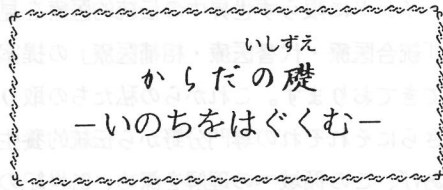
ようせい
大学体育養生学研究会 2003年度決算報告

収 入				支 出			
勘定科目	予算額	決算額	増△ 減	勘定科目	予算額	決算額	増△ 減
会費収入	320000	394000	74000	運営費			
研究会会費	60000	261000	201000	会議費	30000	12756	△ 17244
前年度繰越金	600000	632829	32829	賃金	10000	10080	80
				印刷製本費	50000	35000	△ 15000
				通信費	80000	59845	△ 20155
				消耗品費	50000	30036	△ 19964
				交通費	10000	60000	50000
				借料	5000	0	△ 5000
				広告宣伝費	30000	28560	△ 1440
				炭印費	5000	0	△ 5000
				雑費	10000	1218	△ 8782
				事業費			
				研究会	100000	305155	205155
				その他	0	0	0
				次年度繰越金	600000	0	△ 600000
合計	980000	1287829	307829	合計	980000	542650	△ 437350

※ 収支差額 ⇒ 1287829 - 542650 = 745179

監事 梶野克之・平野卿子 (2004年7月29日)

からだシリーズ・第2弾 乞!期待



好評のシリーズ・第1弾『からだの原点-21世紀〔養生学〕事始め-』（市村出版）に引き続き、本会では、標記「第2弾」を近々刊行。

対象：大学生用の教科書・教養図書
 内容：養生学の実践論・方法論・理論
 執筆：本会会員+関連専門家
 編集：日本養生学会
 協力：(財)神林留学生奨学会
 (財)アジア学生文化協会
 出版：市村出版
 発行：2005年4月（予定）

世界民俗ダンス・フェスティバル

▷ CIOFF 2005 ◁

標記大会の招待状がとどきました。本会は国際基督教大学民俗舞踊研究会と共同で参加団の編成を下記のとおり行うことになりました。参加希望者は本会HPで詳細要項をご覧ください。

参加資格 ①日本伝統民俗舞踊を習得したい方
 ②定期練習集中練習に参加可能な方

開催日程 2005年7月9日～13日
 2005年7月14日～19日

開催場所 前期はイタリア・サルデーニア南部
 後期はイタリア・サルデーニア北部

参加人数 30名前後

経 費 旅費は参加者負担
 滞在費等は主催団体負担
 (お問い合わせは本会事務局へ)

ようせい
 日本養生学会2004年度大会

— ご案内 —

標記大会を下記のとおり開催します。プログラムは現在調整中です。決定次第次号ニューズレターでお知らせします。

主 催：日本養生学会
 共 催：(社)全国大学体育連合関東支部
 東京女子大学健康・運動科学研究室
 と き：2005年3月5日（土）～6日（日）
 ところ：5日 ⇒ 東京女子大学
 6日 ⇒ 東京大学駒場キャンパス
 詳 細：別途案内参照

◇◇◇
 一般研究発表者の募集

(3月5日・東京女子大学)

希望者は下記の要領どおりにご応募ください。

応募資格：発表者は本会会員に限る。
 共同研究者は参加費を収める場合有効
 発表形式：①発表時間は「20分」「10分討議」
 の合計「30分」。

②詳細は正式案内状を参照
 抄録原稿 表題・発表者名(所属名)・本文字数
 「1600字程度」・形式は自由・本文は「目的」「研究方法」「考察」「まとめ」に分けて執筆してください。

申込期限 2005年1月31日：FAXで発表
 申込を行い抄録原稿を期限までに本会事務局へ送付してください。

会員募集！！

ようせい
 日本養生学会

東京女子大学文理学部・横沢研究室内

FAX：03-3396-9996

http://www.yosei.gr.jp/

☎167-8585 東京都杉並区善福寺2-6-1